



虹のはし

発行者：地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター
西市民病院

企画・編集：広報委員会
発行日：2010(平成22)年3月4日
〒653-0013
神戸市長田区一番町2丁目4番地
TEL 078-576-5251

神戸市立医療センター西市民病院広報誌 ホームページアドレス <http://www.kobe-nishishimin-hospi.jp/>

皮膚疾患の新しい治療方法の紹介 —— ナローバンドUVB療法 ——

皮膚科 医長 加茂 統 良

平素は当院皮膚科の診療にご協力賜わり、心より感謝申し上げます。

全身を覆っている皮膚は、紫外線や熱、冷氣、摩擦、様々な化学物質などから体の内部を守っています。さらに、皮膚には、毛髪や爪、汗腺、脂腺、および痛みや温度を感じるセンサーなど様々な付属器も存在しているため、それらの疾患を含めると膨大な種類の皮膚疾患が存在しています。皮膚疾患の種類が多いゆえ、それに比例して治療方法も数多く存在し、さらに現在も新しい治療が次々と開発されており、皮膚科は非常に進歩の速い医療分野であります。

それらの中に、近年開発されたナローバンド短波長紫外線（UVB）療法という、乾癬、白斑、アトピー性皮膚炎などに有効な、紫外線による治療方法があります。当院では平成21年10月より導入しております。これまでの広い波長の紫外線から、日焼けを起こしたり、発癌性を有したりといった有害な波長を除き、幅の狭く治療効果の高い波長域のみを用います。これまでの長波長紫外線（UVA）を用いたPUVA療法のように、照射前に薬を塗ったり、飲んだりする手間がなく、照射時間が短く簡便で、安全性が高く、小児や妊婦にも使用可能で、有効性、即効性も高いといわれています。

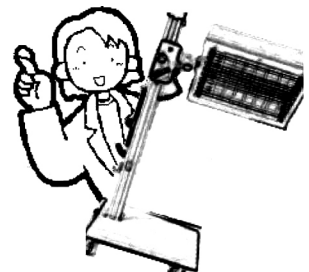
ナローバンドUVB療法は単独でも効果がありますが、これまでの内服や外用治療に組み合わせて用いることもできますので、それらの相乗効果により病状が改善すれば、それぞれの使用量を減

らしたり休薬したりすることが期待できます。

難点は、個人差はありますが日焼けをしやすいたりと照射後の赤みやヒリヒリ感がでることがあったり、一週間に1～3回来院して頂く必要があったり、などです。そういう場合でも、状態に合わせて、効果が減らない程度に照射量を加減したり、通院間隔を延ばしたりするなどの工夫をしています。また、ある種の免疫抑制薬を内服していると照射できないので注意する必要があります。

下記の疾患で、ナローバンドUVB療法を試みたいという患者様がいらっしゃれば、ぜひご来院、またはかかりつけの医療機関からのご紹介を頂ければ光栄です。

最近では、美容やアンチエイジング（抗加齢）への関心も高まっており、私たち皮膚科医も皮膚疾患を治すだけにとどまらず、患者様の体への負担を最小限に抑えつつ、かつ見た目もきれいに治療させていただくことを今後永久の目標として日々努力して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。



◆ナローバンドUVB療法の保険適応疾患

乾癬、類乾癬、掌跖膿疱症、アトピー性皮膚炎、尋常性白斑、菌状肉腫（症）、悪性リンパ腫、慢性苔癬状秕糠疹（治療費は、1日につき3割負担で約1,050円です）